

## 情報技術と図書館

2014年度JLA中堅職員ステップアップ研修(2)  
2014年7月15日(火)13:30-16:00  
栗山正光  
(首都大学東京 学術情報基盤センター)

## 情報技術の歴史と図書館

- そもそも図書館はその時代における最新の情報技術を取り入れてきた
  - 粘土板、パピルス、木簡・竹簡、巻物、冊子、印刷、マイクロフィルム、レコード、ビデオカセット等々
  - カード目録(!)
  - もちろん現在ではコンピュータとインターネット
- ゆえに図書館員が情報技術に弱い・無関心・抵抗を示すなど、あり得ない(!?)

## 図書館におけるコンピュータの活用

- コンピュータの活用には二つの側面
  - 業務効率化、省力化
  - 新しいサービスの提供
- コンピュータは人間より速い、正確、従順
- しかし、コンピュータは人間が指示した通りのことしかやらない(究極のKY)
- 人間はしばしば間違った指示を出す
  - 命令の意味を誤解する
  - 本当にやりたいことが自分でもわかっていない

## この講義のトピックス

1. 情報技術を活用した業務効率化
2. 情報技術を活用した新しいサービス
3. 学術情報と公共図書館
4. 情報セキュリティ

## 業務効率化を考える

- 依然として手作業に頼っている業務は？ その原因は？
- コンピュータで処理することでかえって仕事が煩雑になっている業務は？ どうすれば改善できるか？
- もちろんすべてを機械化する必要はない
- が、業務の見直しは常に必要
  - 状況は絶えず変化する
  - 常識(当たり前)を疑う

## 情報技術を活用した新しいサービス

- インターネット接続環境(無線LANを含む)の提供
- 商用データベース、電子書籍、電子ジャーナルの提供
- 所蔵資料の電子化と公開
- OPACの新しい機能
- SNSによる情報発信
  
- 各図書館でどのようなサービスを実施しているか？
- その効果は？ また課題は？

## 学術情報と公共図書館

- “Access to Research”プロジェクト
  - 英国の公共図書館で商業出版社の電子ジャーナルが無料閲覧できる実験プロジェクト
  - 2014年2月から2年間
  - フィンチ・レポートの勧告による
  - [Access to Research home page](#)
  - [カレントアウェアネスE1534 - 公共図書館で学術文献を: 英国の試み “Access to Research”](#)
  - [STI Updates 記事: “Access to Research”は英国中小企業支援策とはならず?](#)

## “Access to Research”の背景

- 学術雑誌の価格高騰と電子ジャーナル化
  - 大学図書館の予算を圧迫
- オープンアクセス運動
  - 学術論文をインターネット上で無料公開する運動
  - セルファーカイビング: 著者が市販学術誌に掲載した論文の原稿をリポジトリで無料公開
  - オープンアクセス誌: 読者から購読料を取らない(著者や助成団体が払う)電子ジャーナル
- 英国ではオープンアクセス推進のため出版費用を政府が予算化
  - 出版社への二重払いになるとの批判も

## 情報セキュリティ

- 特にネットワーク・セキュリティ
  - 不正アクセス、情報漏洩の防止
  - システムの安定運用
- 方策として、ソフトウェアの弱点の修正(アップデート)、アクセス制限、パスワード管理、ウィルス対策ソフトの導入など
- 安全性と使いやすさのトレードオフ
- 図書館システムのセキュリティは業者まかせになっていることが多い

## 岡崎市立中央図書館事件

- 誤認逮捕事件 cf. [“Librahack”フォーラムの公式記録](#)
  - 2010年、岡崎市立中央図書館の蔵書検索システムにアクセス障害が発生
  - 自作プログラムで図書館のウェブサイトアクセスしていた利用者を偽計業務妨害容疑で逮捕
  - しかし、利用者のプログラムは不当なものではなく、障害が起こった原因は図書館システム(三菱電機インフォメーションシステムズ(MDIS)製)の不具合であることが判明
- その後、MDISは、岡崎市立中央図書館の利用者163人の個人情報が、同じシステムを使用する37館に流出していたことも発表、謝罪

## まとめ

- 情報技術と図書館の関わりについて、四つの側面から検討した
  - 情報技術を活用した業務効率化がうまく行っていない点とその原因
  - 情報技術を活用した新しいサービスの事例とその効果
  - 公共図書館で学術情報を提供する意義(イギリスの事例を中心に)
  - 情報セキュリティのあり方(図書館システムの不具合が誤認逮捕を招いた事例を中心に)